

《担当者名》○ 歯学部准教授 / 川島雄介 歯学部講師 / 中谷温紀 歯学部助教 / 杉浦一考

【概要】

講義で学んだ歯科放射線診療について見学実習で再確認することを目標とする。

【全体目的】

歯科衛生士としての業務範囲で行う歯科放射線診療を理解する。

【学修目標】

一般目標

歯科衛生士として歯科放射線診療の補助ができるようになるための基本的知識を獲得する。

行動目標

放射線の人体への影響を説明できる。

口内法エックス線撮影について説明できる。

パノラマエックス線撮影法について説明できる。

歯科エックス線画像の観察について説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1 (4	撮影見学実習	口内法エックス線検査とパノラマエックス線検査の目的、流れを説明できる。 歯科エックス線画像の観察について説明できる。	川島雄介 中谷温紀 杉浦一考

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

見学実習結果を総合的に判断して評価する。

【教科書】

歯科衛生学シリーズ 歯科放射線学 第2版 医歯薬出版株式会社

【参考書】

「歯科放射線学 第7版」 岡野友宏、他 編集 医歯薬出版

【学修の準備】

指定した教科書の「最新 歯科衛生士教本・歯科放射線」を事前に読む。（各講義予習30分）

講義内容を復習し、専門用語や知識を整理する。（各講義復習30分）

【ディプロマ・ポリシーとの関連】

DP1. 安全で質の高い歯科医療を提供するために必要な専門知識に基づく問題解決能力と患者ケアのための診療技能とからなる専門的実践能力、および医療・医学研究の発展のために必要な情報・科学技術の活用能力を身につけている。

（専門知識に基づいた問題解決能力、患者ケアのための診療技能、情報・科学技術を生かす能力）

DP 2. 「総合的に患者・生活者を支える歯科医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を身につけている。

（総合的に患者・生活者をみる姿勢、プロフェッショナリズム、コミュニケーション能力）

DP3. より安全で質の高い歯科医療を実践し社会に適応する医学を創造していくために生涯にわたって自己および他の医療者との研鑽を継続しながら医療者教育と学術・研究活動にも関与できる能力を身につけている。

（科学的探究、生涯に渡ってともに学ぶ姿勢）

DP 4. 多職種（保健、医療、福祉、介護）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践できる能力を身につけている。

（多職種連携能力）

DP 5. 歯科医療の専門家として、経済的な観点・地域特性を捉えた視点・国際的な視野を持ちながら活躍できる能力を身につけている。

（社会における医療の役割の理解）

【実務経験】

川島雄介（歯科医師）、中谷温紀（歯科医師）、杉浦 一考（歯科医師）

【実務経験を活かした教育内容】

歯科放射線学は、歯・顎・顔面・口腔領域の画像診断を通じて、歯科分野全般の治療方針の決定に寄与する科目であり、学理に立脚した学科教育と実務経験を基盤とした臨床教育で優れた教育成果が期待できる内容となっている。